

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870300864
法人名	有限会社 三幸
事業所名	グループホーム つしま
所在地	愛媛県宇和島市津島町高田甲83-1
自己評価作成日	平成28年5月1日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成28年5月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

今年度は、ご利用者様お一人お一人に、自分らしく充実した生活を送って頂く為に職員は何をお手伝いできるのかを、基本理念に沿って考えてみました。職員は個別支援を重視し個人に関われる時間を多く持つことにしています。田畑に囲まれた静かな環境の中で、ご利用者様との散歩やくつろぎの時間を大切に地域の方々との交流を持つことにも取り組んでいます。また年々高齢化してきている現状もあり、職員は観察力を養い必要とするときには医療機関に相談、報告することで早期に対応できるよう体制を整えています。

家族来訪時に散歩に出かけたり、重度の利用者には職員が車いすを押して外で過ごせるような機会を作っている。夜間、仲の良い利用者同士で居酒屋に出かけて楽しめるような機会を作った際には、家族も誘い利用者の様子をみてもらったり、一緒に過ごせゆくり話をする機会にもなった。
職員が「やってみたいこと」があれば、申し送りノートや提案ノートに記入して「まずはやってみる」ことに取り組んでいる。事業所では「自分で考え、行う」ことをサポートして、職員のレベルアップにつなげている。又、新人職員は先輩職員をお手本にして学ぶ仕組みがあり、先輩職員の勉強の場にもなっている。職員は、勤務の休み希望や交代等も協力し合い、働きやすい職場を作っており、退職者はとても少ない。
車いすの利用者も椅子に座って食事することを支援しており、姿勢にも気を付けて支援することで誤嚥性肺炎に罹る利用者が少ない。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホーム つしま

(ユニット名) やまもも

記入者(管理者)

氏名 土居 松美

評価完了日 平成28年 5月 1日

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所 理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有 して実践につなげている	(自己評価) 職員はご利用者やご家族と信頼関係を築き、管理者は職員 と共に「ご自分たちで選んだ人生」を歩めるよう理念を共有し サービス提供の拠りどころとしている。また、ご家族がいつで も利用者に会いに来られるような配慮をし、ご自宅で生活し ているような環境を整えるようにしている。 (外部評価) 「穏やかにその人らしく過ごせる日々をお手伝いします。」「寄り添 い 共に歩き めくもりのある生活を支援します。」と理念をつくって おり、カンファレンス等でも理念に立ち戻り、ケアについて話し合っ ている。運営推進会議では、まず理念について話す時間を設けて おり、継続することで家族や地域の方にも周知されている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる よう、事業所自体が地域の一員として日常的に 交流している	(自己評価) 運営推進会議においては地域の行事等の情報を得て、また 自治会に加入し避難訓練等に参加している。散歩に出かけ た際には、近所のゲートボール場で休憩させていただいた り、おやつにも誘っていただき「グループホームつしまが一 番いい施設になって欲しい」と地域の方々に応援して頂いて いる。 (外部評価) 事業所運営に関心を持ってきている地域の方が多く、運営推進 会議への参加者も多い。参加者から「友人が認知症になっていると 思うので、どう接したらいいか知りたい」と相談があり、管理者(代表 者)が相談に応じてアドバイスを行ったような事例がある。野菜を直 販所に出す地域の方が、残った野菜をくださったり、事業所前を散 歩する方が玄関先にお花を飾ってくれたりする。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症 の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向 けて活かしている	(自己評価) 2か月に1度の推進会議を通じて話をしている。その際事業 所の取り組みや、職員が参加した研修の報告をして支援の 方法を共に学び、地域での認知症介護に活かしている。地 域の方からの介護相談も行っており地域貢献をしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議では利用者の入退居、ホームの行事、日常生活の様子を報告している。会議では、意見を出しやすい環境を整えて話し合いを重ね、提案された意見を生活に活かしている。日程等では夕方から会議を始める等、参加しやすいように予定を組む工夫をしている。</p> <p>(外部評価) 会議は偶数月の第3水曜日13:30から事業所の居間で行っている。地域の防災訓練後の会議では、地域の参加者から「津波発生時には避難場所である高台に逃げることは難しいため、5分くらいのところにあるクリーンセンターに避難する方が良い」とアドバイスがあり、消防署にも報告して避難場所を変更した。</p>	<p>市の担当者や家族の会議参加は都合等もあって少ないが、会議の目的や意義を確認し合っ、時間帯や内容等を検討してはどうだろうか。いろいろな立場の方が会議に参加できるよう工夫してほしい。</p>
5	4	<p>市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 宇和島市地域包括支援センターからの行方不明の高齢者の情報等があった時には捜索の協力をしている。空き部屋が出来た時には地域包括支援センターへの情報提供も行っている。運営推進会議へ市から担当者が出席していただき事業所運営にも一緒に取り組んでいただいている。</p> <p>(外部評価) 高齢者地域見守りネットワーク「だんだんネット」に登録している。介護相談員の受け入れを行っている。</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 代表者と職員は会議の度に、「安全を守る」と「自由な暮らしを築く」にはご利用者をどう支えられるかを常に話し合っている。日常的に職員は「拘束をしても解決はしない」ことを念頭に置いて、拘束をしない介護に取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 車いすからのずれ落ちの心配があるような場合は、介護計画に挙げ、様子を見てベッドで横になる時間を作る等して支援を行っている。又、車いすの利用者も椅子に座って食事することを支援しており、姿勢にも気を付けて支援することで誤嚥性肺炎に罹る利用者が少ない。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待の防止や見過ごしを年間の研修に組み込み、資料等にて学び徹底している。また日常にご利用者の身体に異変がないか等注意をしている。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 親しい弁護士や、司法書士に指導して頂いている。管理者は社内研修等において制度について学ぶ機会を設けている。また制度を理解し相談等があれば支援できる体制にある。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時・解約時・改定の際には十分な説明を行い、理解・納得を頂いた上で契約・同意を得ている。また、契約後・解約後も問い合わせがあればその都度納得頂けるように努めている。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者の方が長期入所の方も多くなったため、ご家族とのお付き合いも長年にわたる事もある。ご本人の最期をどのようにしていったらよいか等、信頼関係が深くなったことにより相談も親密になってきている。他にも事業所の取り組みを具体的に伝えることで活動に積極的に参加していただいている。 (外部評価) 家族の来訪時には、利用者の様子を報告してケア等の意見や要望を聴いている。又、季節ごとの「つしま通信」と、毎月、個別に手紙を送付して行事や健康面について報告を行っている。遠方に住む家族とは、SNS等でやり取りを行っているケースがある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 2ヶ月に1度の管理者抜きのユニット会議を行い気づいたことややってみてほしいことを話し、それに対して改善をすることで職員が安心して業務に取り組める環境を整えている。	
			(外部評価) 職員が「やってみてほしいこと」があれば、申し送りノートや提案ノートに記入して「まずはやってみる」ことに取り組んでいる。事業所では「自分で考え、行う」ことをサポートして、職員のレベルアップにつなげている。又、新人職員は先輩職員をお手本にして学ぶ仕組みがあり、先輩職員の勉強の場にもなっている。職員は、勤務の休み希望や交代等も協力し合い、働きやすい職場を作っており、退職者はとても少ない。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 時間外勤務はさせない、働きやすい勤務表の作成、職員の急病時の対応を行っている。代表者は個々の努力や各自向上心を持って働ける職場環境を整え、定期昇給や賞与支給も業績によって行っている。また資格取得の奨励にも取り組んでいる。	
			(外部評価)	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 職員の研修参加は運営規程にも定めている。皆が順番に希望する研修に参加できるよう勤務体制も整えている。介護福祉士試験等も個別に勧め、それぞれの力量に応じた資格等の取得向上にも努めている。	
			(外部評価)	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 他施設見学や食事会をして交流を図っている。また定期的に行われている宇和島市グループホーム連絡会へも参加し、情報交換や勉強会を行いサービスの質の向上に努めている。	
			(外部評価)	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) サービスの利用開始前の事前面談では、ご本人の生活状態を把握するよう努めて、ホームの見学も受け入れ本人の希望や不安に対する話に耳を傾け、これからのホームでの生活が良いものになるよう配慮している。入居後も不安や要望を傾聴し安心して暮らせるよう努力している。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>介護相談や入居前の見学の段階でご家族の不安なことや要望を十分に聞きとり、適切な対応をすることで関係づくりに時間を使うことにしている。</p>	
17		<p>初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時、まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>入居前後において現在一番必要なサービスは何かを見極め、出来る限りの対応に努めているが、相談内容によっては他の事業所を紹介している。</p>	
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>食事や日課を共に行う中で、介護する側される側という意識をなくし、共に行い共に話し合える関係を作るようにしている。また行った作業や家事に対して感謝の心と言葉をわすれないようにしている。</p>	
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>面会の時やお便り等でご本人の様子を伝えている。ホームでの生活は面会時間を設定せず自宅での生活の延長ととらえているためご本人の体調が悪い時はご家族が夜間も付き添って協力して頂いている。</p>	
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>正月には職員が手伝って、ご家族や友人へ年賀状を出せるようにしている。馴染みの美容院を定期的にご利用する利用者の方や、入居前に活動していた会の仲間が面会に来られたり、関係が途切れないような支援に努めている。また退居された方の知合いが申し込みに来られたこともある。</p> <p>(外部評価)</p> <p>近くに住む友人や親せきの方は、会いに来てくれることが多いが、なかなか事業所に足を運べないような遠方のご家族には、動画で利用者の様子を伝える工夫を行っている。管理者は今後、「利用者ご本人が望む場所で1泊できるような支援にも取り組んでみたい」と話していた。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士の関係を把握するため一人一人の思いを聞いて必要な場面には利用者同士の関係づくりを支援している。席の配置を考えご利用者個別に話ができる環境も整えている。またレクリエーションや日課でお互いに交流が図れるよう支援している。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入院等で利用が終了してもお見舞い、ご家族の要望で支援している。サービス利用が終了された方からも個人情報への配慮やご家族の心情に配慮しながら行事への参加や連絡がいただけるなどの関係にある。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の関わりの中で声を掛け、ご希望を把握するようにし、言葉や表情などからその真意を推し測ったり確認するように努力している。意思疎通が困難な方にはご家族より情報を得るようにしている。	
			(外部評価) 利用者は、運営推進会議に参加して「嫌いな食べ物を代替えてくれる」「わがまを聞いてくれる」等と、事業所サービスについての感想を話している。前回の外部評価実施後には、「基本情報に関する項目」に沿って全利用者の情報を更新した。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) ご家族や親類、ご友人等にこれまでの暮らしぶりや生活環境をお聞きし、グループホームで生活をする中でご利用者の思いや望みを把握できる様努めている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人一人の一日の生活リズムを把握し、理解してご本人が出来る事に着目、しその力を発揮していけるようにしている。毎日のバイタルチェックからは身体状況、心身状態等把握し体調の変化に気づく様努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	(自己評価)	<p>地域や家族、又、利用者によっては、医療関係者とチームで利用者の暮らしを支えていけるような計画作成に工夫してはどうだろうか。又、計画に沿ってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して状況確認を行い、日々の支援につなげていってほしい。</p>
			<p>本人・御家族に事業所での生活について希望を聞き主にそれを中心にカンファレンスにて意見をまとめ介護計画を作成している。持病のあるご利用者の方にもご家族が「我慢しなくてもいいから」と言われれば医師との相談の下で食事制限もせず好きなものが食べれるよう支援している。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	(自己評価)	
			<p>介護計画は「利用者個々の暮らしの希望を叶えるプラン作り」の視点で作成しており、利用者個々の担当職員が計画を立案して話し合い、管理者が作成している。管理者が利用者に変化があった場合は、「支援経過」に記録し、その内容をもとにして3～6ヶ月で見直しを行っている。</p>	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	(自己評価)	
			<p>日勤帯、夜勤帯と介護日誌や介護記録にご本人の毎日の状態を記録している。ご利用者との会話やご本人の状況、変化を見落とさないよう記録している。カンファレンスの際には日々の暮らしやケアプランを客観的に見つめなおし介護計画の見直しに役立てている。</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	(自己評価)	
			<p>認知症のある方々が日々落ち着いた生活を送ることが出来るようその都度臨機応変な対応をしている。ご本人・御家族の状況や要望に応じて通院、外出の支援などを行っている。</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	(自己評価)	
			<p>運営推進会議での、市職員や地域の方の参加により周辺情報の収集や支援に関する情報をいただいております。その情報をご利用者の生活に活用している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 本人やご家族と相談してかかりつけ医を決めている。事業所の近くには協力医療機関がある為、往診に来ていただいたり、ご家族が受診に付き添われたり職員が同行して円滑に受診ができる体制を整えている。入居時や体調変化時等には、協力医も同席して頂き一緒に話し合う等、細かいサポートも行っている。</p> <p>(外部評価) 看護職員を配置し、かかりつけ医とも連携を図りながら重度化や看取りの支援を行っている。歯科は、それぞれのかかりつけ医で診てもらっており、往診もある。月に1回程度口腔ケアに来てくれており、歯磨きの仕方等のアドバイスがある。又、職員が利用者の口腔内の健康状態を把握する機会にもなっている。そのような取り組みを継続することで、誤嚥性肺炎に罹る利用者が少ないという成果がある。</p>	
31		<p>看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 看護職員に常時相談できる体制を作っている。日頃より体調、表情の変化等を見逃さないよう早期発見に取り組んでおり、適切な医療に繋げている。</p>	
32		<p>入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>(自己評価) 入院時は出来る限り面会に行き安心してできるようにしている。病院関係者との情報伝達が円滑に進むよう普段から報告、連絡、相談をこまめに行っている。退院時にはサマリーや退院時療養計画書等を参考にしている。</p>	
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 看取りについての同意書をつくり、急変時、救急搬送時の対応について折を見てご家族に確認して頂いている。利用者の方やご家族は看取りを希望される方が多く同意書を理解して頂いているが、状態が悪化したときにも再度意思の確認を行い、納得のいくような対応を支援するようにしている。</p> <p>(外部評価) 「最期まで見てくれること」について安心を感じている家族が多い。重度化しても食事形態の工夫や時間をかけ見守りながら支援することで、口から食べることに力を入れて取り組んでいる。看取りを支援した後はカンファレンスを持ち、職員それぞれが感想や意見を出して話し合っている。今後は、支援時に「家族が居心地良く過ごせるような環境」づくりに工夫したいと話していた。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) ご利用者の急変時の対応、応急手当についてのマニュアルも作成し、全職員が慌てることなく対処できるようにしている。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 秋には消防署の指導のもと、職員が手薄になる夜勤帯での火災想定避難訓練を実施している。運営推進会議のメンバーや地域の方も一緒に消火器を使用し消火訓練をしている。春には自主訓練を行い、自治会の津波の訓練にも参加をして、日頃より防災に対する意識を高めようと取り組んでいる。 (外部評価) 運営推進会議時には、災害時の対応について話し合う機会を作っており、地域の方から教えてもらった避難場所まで避難する訓練を行った。地域の防災訓練時には、地域の方が応援に来てくれた。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 管理者は「ご利用者の方は私たちの人生の先輩である、その先輩へは必ず敬語を使うように」と指導している。時には方言も混じる為、その際にはやわらかい言葉と笑顔で接することに心がけている。お一人お一人の人格を尊重し、自宅で過ごしていると思えるような気持ちの良い環境で接することに取り組んでいる。 (外部評価) 重度の利用者が多く、それぞれの体調や生活のリズムに合わせて食事時間等も変えて支援している。又、職員は、スキンシップを多くしてかかわることに取り組んでいる。利用者が自分で食事ができるような支援に配慮しており、時折手を使って食べる方には、職員が食べこぼし等を片づけてサポートしていた。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 傾聴する事に心がけご利用者の表情、言動、行動等いろいろな場面で意思表示が出来るよう支援している。日常生活の中では各担当者を中心にご本人の思いや希望を引き出すようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、 一人ひとりのペースを大切に、その日をどのよ うに過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 個々に関わるように、職員は個人の生活歴等を把握して いてお一人お一人に関わる時間も多くとれるよう、業務改善 を行ってきた。希望・要望を聞き取り出来る限り意向に添うこ とを優先し利用者の方のペースに合わせ、決して無理強い せずその方らしい生活を支援している。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよ うに支援している	(自己評価) 本人の行きつけの美容院やスーパーに出掛けている。ご家 族にも協力して頂きご本人と共に衣替えをしたり、季節に合 わせた服を用意して頂いている。可能な限りご本人が選んだ 服装にしている。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好 みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に 準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 献立は利用者からのリクエストや季節の食材を使ったものである。 野菜や魚を多目に採りいれ地元の食材を使い会話しながら一緒 にごしらすえをしたり調理、後片付けをしている。食事の時間は決め ておらず、好き嫌いのある方に関しては献立を変更して食べて頂く 等の配慮をしている。食事においても利用者の方の生活のペース に合わせ支援をしている。	
			(外部評価) 地域の方から野菜や果物等の差し入れが多くあり、旬の食材を採り 入れて食事を作っている。利用者の希望を聞き取り献立を立てたり、 時にはお好きなものを食べに出かけている。自宅での朝食の習 慣に合わせてパンや飲み物等、自宅と同じように用意しているケ ースもある。車いすの利用者で手は自由に動くような方には、座って 野菜のごしらすえ等ができるような場面を作っている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じ て確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣 に応じた支援をしている	(自己評価) 健康維持が出来るように、栄養バランスに注意し献立の工 夫、個々の状態に合わせた食形態で支援している。食事 量、水分量をチェックし個人のファイルに記録し、職員間の 情報の共有もしている。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、 一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔 ケアをしている	(自己評価) 食後口腔ケアの声かけをし誘導、見守り、一部介助をしてい る。自発的にできない方や一人で行うことが困難な方へは職員 が介助して口腔内の清潔保持に努めている。必要に応じて 歯科受診等も行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 職員はオムツに排泄する気持ち悪さを知ったうえで、お一人お一人の排泄状況をアセスメントして、トイレで排泄することの意義を理解し支援にあたっている。声のかけ方ではご本人の自尊心を傷つけないような配慮をしている。夜間でもトイレで排泄できる様、足元の不安定な方にはソファー等で手すりを作り環境を工夫している。 (外部評価) 全利用者トイレで排泄できるよう支援しており、尿意を表せないような利用者も、2時間おきにトイレに座れるような支援に取り組んでいる。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 日頃から排泄パターンを記録し、便秘予防・水分摂取の為食物繊維を多く摂る食事の工夫、毎日の体操・散歩・家事活動等を積極的に行い、自然排便できるよう取り組んでいる。	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 利用者の方は週に2～3回入浴され、夏場には毎日入浴される方もある。朝入浴を希望される方もおられ、事業所の都合や時間帯を問わず本人の生活習慣やペースに合わせて支援している。顔に水がかかるとを嫌い入浴を拒む方には、ドライシャンプーを使用する等、個々の好みや希望に沿った支援をしている。 (外部評価) 一般家庭用の浴槽を設置しており、重度の利用者には職員が2名で介助して浴槽で温まれるように支援している。午前、午後と体調等も見ながら職員が声をかけて希望を聞き支援している。冬至にゆず湯をした際には、長湯した利用者がいた。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 生活のリズムが整えられるようできるだけ日中の活動を促しているが、ご利用者一人一人のその日の体調や表情、希望を考慮しゆっくり休息がとれるよう支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 往診時には主治医から本人に分かりやすく説明して頂いている。職員も一緒に説明を聞き副作用等の情報も把握している。症状の変化があれば、主治医に報告しその都度対応して頂いている。また職員は、薬の処方箋を一覧にし常に確認できるようにしている。ご本人に薬を手渡す際には、呼称確認をし誤飲防止にも努めている。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 利用者やご家族から以前からの楽しみや趣味等を聞いておき、継続して行えるよう支援している。得意な事でホームのお手伝いをしたり、職員と外出し気分転換を図られている。嗜好品においては、好きな飲み物を用意したり、寝前にお酒を飲む習慣のあった方には飲んで頂いたりしている。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 外出を好まない方には無理強いをしないよう心がけ、「行きたいところへ行くことは当たり前」という考えのもと、出来る限りの外出支援をしている。入居前にはお酒を飲まれカラオケに行かれていた方には時々ホームの近くの居酒屋で酎ハイを飲む等の楽しみを続けて頂いている。	
			(外部評価) 家族来訪時に、散歩に出る方や重度の利用者には職員が車いすを押して外で過ごせるような機会を作っている。夜間、仲の良い利用者同士で居酒屋に出かけて楽しめるような機会を作った際には、家族も誘い利用者の様子を見てもらったり、一緒に過ごせゆっくり話をする機会にもなった。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) ご家族の同意のうえでお金を持つことで安心を得られるご利用者には財布に少額入れていただき、買い物に行った際にはご自分で支払いをし、社会とのつながりを感じて頂けるよう支援している。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 年賀状等を出すための支援を毎年行っている。ご本人が十分に行えないことは支援しながら、御家族や友人に手紙を書いたり、贈り物が届いたら電話をかけるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>事業所は田園に囲まれて周りには季節の木々が茂っている。天気の良い日にはなるべく外気に触れるようにし窓も開放して風通しには注意を図っている。時計やカレンダーを見やすい位置に掛け、玄関先には季節の花を生け心地よく過ごして頂けるように配慮している。車椅子を利用されている方も居間では椅子に座りかえて、車椅子は移動の手段としている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>事業所の周りは田畑が広がり、季節の移り変わりが楽しめる。窓辺にはソファを設置しており、くつろぎながら外を眺める利用者もいる。調査訪問時にはテーブルの上にアジサイ等が生けてあり、会話のきっかけになっていた。観葉植物を所々に配し、居間や廊下はきれいに掃除をしていた。</p>	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>共用スペースにはテレビ・ソファを配置し、ご利用者の方向士が思いを話せる場を設けている。お一人で過ごすことが好きな方には日当たりの良い部屋にイスを置き、ゆっくりと外を眺めたり、面会に来られた方とお話ができるスペースを設け、快適に過ごせるようにしている。</p>	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>混乱が生じないように、家具やソファ・飾り等は馴染みの物を置かれ、今までと変わらない居室作りをすることによって、御家族や知人が来られた時には共に落ち着いて過ごせるようにしている。お気に入りの写真を飾ったりご自宅から仏壇を持ち込まれている方もある。</p> <p>(外部評価)</p> <p>折り紙や手芸が好きな利用者の部屋には作品をたくさん飾っており、仲良しの利用者と一緒に作っている。テーブルを窓辺に置き、窓からの採光で作業がしやすいよう配慮していた。窓は、掃出し窓になっており、腰かけて外を見ながら過ごすような方もいる。利用者個々の担当職員が、掃除や衣替え等を細やかに行っている。亡夫や父母、子供の写真を飾ったりテレビを置いているところもあった。</p>	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価)</p> <p>居室・食卓の席などは個々に応じて決めていて、居室の家具の配置等は身体機能に合わせ工夫し安全に暮らせるようにしている。また、廊下、浴室等においては手すりを設置し、移動の際には十分注意をしてもらうよう声掛けをしている。トイレの位置や居室の場所が分からない時には貼り紙などの工夫もしている。</p>	